

日本共産党前都議会議員



そねはじめレポート
4月21日(日) No.67
発行：そねはじめ事務所
〒114-0032 北区中十条2-11-6
Tel：3907-1135 Fax：3906-3225

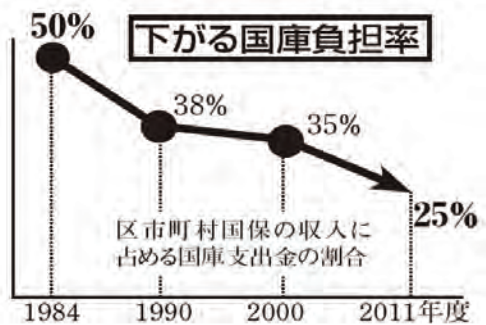
国保
介護
後期高齢

保険料の負担軽減を

そねはじめ 年額5000円ずつ値下げを提案

**アベノミクスで
値上げ次つぎ**

- 輸入小麦—平均 **9.7%**
- 家庭用食用油
—1キロあたり**30円**
- トイレットペーパー・
ティッシュペーパー
10～15%
- 電気・ガス
4月、5月と連続値上げ



この4月から国民健康保険料が大幅に値上げされ、高齢者や低所得者を直撃します。今でさえ「払いたくても払えない」保険料。そねはじめ前都議は、国保、介護、後期高齢者医療保険料を、それぞれ年額5000円値下げし、負担の軽減をはかると訴えています。

東京都は、世界最大の財政規模をもつ自治体。

都民のために使える貯金も8700億円にのぼります。その一部も活用すれば、保険料の負担軽減は実現可能です。

高い国保料が国民に押しつけられる一方で、国の負担は年々減っています(グラフ参照)。日本共産党は、国の社会保障切りすてに反対し、国庫負担を増やすためにがんばります。

さがら区議地域 **春のつどい**



13日に開かれた、さがら区議地域の「春のつどい」。そねはじめ前都議のわかりやすい訴えに、大きな拍手と歓声がわきました。

日本共産党演説会

4月29日(月・休日)
赤羽会館講堂 午後2時

党副委員長・政策委員長
小池 あきら

党東京都雇用と就活対策室長
吉良 よし子

前都議会議員
そねはじめ

そねはじめ前都議、都政の焦点を語る

13日、岸町ふれあい館で開かれた「都政わいわい勉強会」（主催は同実行委員会）。午前中には日本共産党から、そねはじめ、小竹ひろ子の両前都議が出席し、都内各地から集まった約40人の参加者と交流しました。



勉強会では最初に、ゲストが10分ずつのスピーチ。そねはじめ前都議は、都政における重要な課題として、(1)高齢者に安心の住まい・医療・介護、(2)若者の教育・雇用・子育て、(3)「原発ゼロ」・命を守る防災対策、をあげ、日本共産党の政策を詳しく紹介しました。その後、参加者との交流では、都民投票条例や東京オリンピック問題、学校現場での教師の労働環境など、さまざまな質問に答えました。

北区職員による収賄事件 全容解明・再発防止に力つくす

9日、中学校の新築工事受注契約にかかわって業者側に工事予定価格を漏らし、見返りに500万円を受け取ったとして、北区営繕課の職員が逮捕されました。

そねはじめ前都議は街頭でこの事件にふれ、「ワイロで公共事業を不正にゆがめるなどは、あってはならないこと。日本共産党は全容の徹底解明、再発防止に力をつくす」と決意を表明しました。

あわせて「政治とカネ」の問題に言及し、企業・団体献金や国民一人あたり250円の「強制カンパ」＝政党助成金の受けとりをいっさい拒否する日本共産党の立場を紹介。道行く人から、「その通り」「国民の声を代弁できるのは共産党しかない」「政党助成金を受け取らないのがいいわよね」など、清潔な党への共感が広がりました。



街頭で政策を訴える、そねはじめ前都議（17日早朝、十条駅）

そねはじめ切り絵の世界「NO. 14」

創作時の思いがよみがえる「長崎の被爆少女」



20代の終わりごろ、民青同盟の地区専従をしながら毎年「青年美術展」に切り絵を出し始めて2回目の作品です。当時、残された原爆写真を集大成した分厚い写真集が出され、長崎の被爆写真の大半を撮影した陸軍広報隊の山端庸介氏のことを知りました。

彼が撮影した三菱造船所付近で倒れこむ人びとの中にぼう然と座る少女の写真に釘付けになり、陰影を逆転した新しい切り方で悲しみと怒りを湛えた表現を試みました。向って左の眼はほぼ狙い通り、しかし右の眼がきつ過ぎて表情は曖昧になり、暗い雰囲気だけが浮き彫りになってしまいました。

最近 NHK が山端氏の写真をもとに調査し、この少女の隣に倒れていた女性の生存が確認されましたが、この少女は助からなかったと思います。